

早稲田大学大学院日本語教育研究科


2015年2月


博士学位申請論文審査報告書


論文題目：

中国の大学日本語専攻教育における卒業論文支援に関する実践研究
—支援活動を通じた学習者の学びのプロセスをもとに—

申請者氏名：楊 秀娥

主査 川上 郁雄 署名 川上郁雄 
(大学院日本語教育研究科教授/日本語教育学)

副査 池上 摩希子 署名 池上摩希子 
(大学院日本語教育研究科教授/日本語教育学)

副査 鈴木 義昭 署名 鈴木義昭 
(大学院日本語教育研究科教授/日本語教育学)

〈本論文の概要〉

本研究は、中国の大学日本語専攻課程で実施された卒業論文作成の支援に関わる実践プロセスをもとに、中国の大学日本語専攻教育における卒業論文指導および日本語専攻教育のあり方を日本語教育学の観点から探究した研究である。研究の目的は、中国の大学日本語専攻教育における、①卒業論文支援のあり方を探究すること、②卒業論文作成を支える教育実践を分析し、日本語専攻教育の捉え直しと日本語専攻教育に対する新たな提言を行うことである。

そのために中国の大学日本語専攻教育における卒業論文指導の現状と課題を分析し、卒業論文作成の支援活動の理念と方法論を検討し、そのうえで、卒業論文作成を行う学習者の視点から卒業論文作成のプロセスの詳細な分析を行い、中国の大学日本語専攻教育における卒業論文作成の新たな捉え方と日本語専攻教育に対する提言を行った。申請者自身が中国の大学で教鞭をとった経験を踏まえ、教育観の検討、そこから教育実践をデザインし、実践の結果から新たな教育実践を考えるという実践研究の方向性をもった研究である。

本論文は序論の第1章から結論まで9章で構成されている。総ページ数は、参考文献も含み、302ページである。第1章の序論では、問題の背景、問題意識、そして本研究の研究課題を3点提示した。それらは、中国の大学日本語専攻教育において、①教師は、日本語専攻教育における卒業論文作成の支援活動をどのように設計したらよいか、②学習者は、支援活動で支えられる卒業論文作成のプロセスにおいてどのように学んでいるか、そして申請者は③学習者の学びのプロセスと支援活動の振り返りから、今後の卒業論文支援と日本語専攻教育に向けて何が提言できるか、である。

その上で、第2章では、中国の大学日本語専攻教育において、これまで日本語専攻としての教育目標、教育内容と方法に、思考力をはじめとする人文的素養の育成を目指してこなかった歴史的経緯を分析した。また近年盛んに議論されている複合型人材育成パターンにおいても、思考力育成の観点が弱いことを指摘し、日本語教育における思考力育成の重要性を確認した。

続く第3章では、日本語専攻教育における卒業論文作成と卒業論文指導の現状を先行研究および卒業論文を書いた学習者を対象にしたオンライン上のアンケート資料を分析し、卒業論文作成の課題を明らかにするとともに、卒業論文作成支援に向けての方向性を示した。

第4章では、第2章、第3章の結果を踏まえつつ、広く教育理論、「批判的思考」論、日本語アカデミック・ライティング教育論、対話を取り入れた日本語教育実践に関する先行研究と議論をレビューし、卒業論文作成支援の設計を支える理論と実践の方法について論じた。そのうえで、第5章では、中国の大学における日本語専攻教育の卒業論文作成には、学習者の思考力育成が求められることを中心に据えて、対話的実践とした卒業論文作成支援実践の枠組みを設定した。

以上が本論文の研究課題①についての研究のあらましである。続く第6章、第7章は、研究課題②についての研究部分である。まず第6章では、中国中部にあるK大学において5名の学習者を対象に7か月間行われた卒業論文作成の実践を例に、その実践の中の「読みの検討」と「テーマ調整」に焦点を置き、その支援活動の過程での教室の話し合いや振り返りシート等の分析を通じて、学習者に卒業論文作成の過程でどのような学びがあったかを明らかにした。

さらに第7章では、卒業論文作成に対する学習者の意味づけ、およびその変容のプロセスを明らかにするために、教室内での話し合い、アンケート調査、インタビュー、振り返りシート等の分析を通じて考察した。その結果、学習者は、卒業論文作成が自らの思考力の育成、表現力の育成、自己認識の深化、自分づくりに役立っており、ひいてはその経験が社会生活に活用できると認識していることがわかった。また、そうした認識は、教師の支援活動と学習者の研究実践の両方から形成されたことを示している。以上が本論文の研究課題②についての研究部分である。

次の研究課題③については、第8章において、第6章と第7章の研究をもとに総合考察と今後の卒業論文作成支援のあり方についてのテーマで日本語専攻教育に対する提言にまとめている。ここでいう卒業論文作成は、学習者にとって批判的思考、論理的思考、創造的思考を含む「思考の経験」であり、かつ他者と意思疎通を行い、新しい意味を創出する言語活動としての「表現の経験」であり、これらの「経験」は連続性と相互作用を持つという意味で、「思考と表現の経験の構築」ととらえると同時に、学習者の「思考と表現の経験の構築」を支える支援活動の意味を考察する。さらに、今後の「卒業論文作成支援に向けての提言」として、これまでの日本語専攻教育を見直し、卒業論文の位置づけの再確認、支援体制の確立、支援目標の再考、支援方法の探索を進めること、さらには、ゼミやアカデミック・ライティング授業の新設などを含むカリキュラムの改革、研修等を通じた教師の教育観の更新などを提示した。

第9章は本論文の主張を改めて結論としてまとめ、かつ本論文の意義と今後の課題を明記する。最後に「日本語文献」「中国語文献」「英語文献」を合わせた参考文献と実践調査関連資料が添付されている。

〈本論文の評価〉

本論文の主な主張とその評価は以下の3点にまとめられる。

第1点は、中国の大学の日本語専攻教育が目指すべきは、学習者の思考力の育成であるとして、そのための卒業論文作成の理論と実践のあり方を具体的に示した点である。従来の日本語専攻教育が知識伝授型の教育であり、学習者の思考力育成を軽視してきた点や、近年の複合型人材育成の議論に思考力育成の視点が欠如している点を調査に基づき批判的に検討したうえで、対話を重視した卒業論文作成の支援活動を理論的にも、また実践を踏まえた方法論においても明示した点は高く評価できる。

第2点にて扱ふべき点は、理論研究を踏まえた卒業論文作成の支援活動をデザインし、それに基づいて実践を行い、その卒業論文作成の実践で学習者にどのような学びがあったのか、さらに、卒業論文作成に対して、学習者がどのような意味付けをしていたのかを、詳細に分析し、明示した点である。卒業論文作成が学習者の思考力と表現力の育成につながり、その経験が大学卒業後の社会生活に活用されるであろうことを示した点も高く評価できる。

第3点は、このような実践研究を踏まえて、卒業論文作成を「学習者の思考と表現の経験の構築」として理論的に捉え、独自の方法論を提示することによって、中国の大学における日本語専攻教育およびその卒業論文作成支援への提言を行っている点である。卒業論文作成という教育実践が学習者にとってどのような学習なのか、またそのための教育支援活動とはどのような実践なのかについては、従来の卒業論文作成に関する先行研究では十分に論じられてこなかったが、学習者の学び、教育支援活動の意義を明確に示した点は、中国教育界にはこれまでなかった優れた視点であるといえる。また、これらの論点を考察する際には、「言語＝道具」論が重視されがちな、中国における日本語教育、または外国語教育のあり方、さらには大学でのアカデミック・ライティング全体を視野に入れて考察している点も高く評価できる。

ただし、若干の課題もある。たとえば、実践研究として銘打たれている本研究であるので、実践研究としての捉え方をより明確にすべきであった。論文の中核を成す卒

業論文支援の活動は、実践研究の枠組み（細川 2005、舘岡 2008）によって構成するとされているが、「実践＝研究」という立場をとり、教師の教育観から実践をデザインし、実践から得たデータを検討し、そしてまた実践を行うとなっている、この実践研究の枠組みにおいて、「なぜ、卒業論文を扱うか」という問いがどのように位置づいているのかが曖昧になっている。申請者は、本研究を行うことによって、自身がこれまで行ってきた日本語専攻教育を意味づけ、これから行っていきたい日本語専攻教育を展望できたとするが、こうした実践研究としての本研究の意義と併せて論じてほしい。なお、本研究では、ひとつの大学の5名の学習者を対象として卒業論文作成支援を実践したが、今後、さらに多様な文脈で実践を行うことができれば、より説得力のある提言が得られるであろう。

〈本論文の判定〉

以上述べた諸点があるとはいえ、本申請論文は、独自性のある優れた学術研究として高く評価することができる。よって、本申請論文は日本語教育学の博士学位論文に値するものと判断する。

引用文献

- 細川英雄（2005）「実践研究とは何か」－『私はどのような教室を目指すのか』という問い』『日本語教育』126号、pp. 4－44.
- 舘岡洋子（2008）「第1部第4章 協働による学びのデザイン－協働的学習における「実践から立ち上がる理論」－」細川英雄＋ことばと文化の教育を考える会編『ことばの教育を実践する・探究する－活動型日本語教育の広がり』凡人社、pp. 41－56.